

「学校の新しい生活様式」を踏まえた やましろ授業スタンダード

～やましろ未来っ子が輝くために～

感染防止に配慮した授業づくりをどう進めていくか、例えば、児童生徒の話合い活動や発表する活動をどうしたらよいか困っていませんか？

文部科学省は基本的な考えとして、以下のように示しており、**学校教育ならではの学び**を最大限に確保するための「学校の新しい生活様式」を踏まえた**授業づくりの工夫**が必要です。

◇感染防止対策を講じた上で、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行うことが大切

「新型コロナウイルス感染症に対応した小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における教育活動の実施等に関する Q&A (文部科学省5/21)」

◇協働的な学びを実現しつつ学習の遅れを取り戻す

「『学びの保障』のための学習指導について(文部科学省6/9)」

感染防止に配慮しつつ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりをどう進めていくかを考えましょう。

「やましろ授業スタンダード」の活用で目指すことを確認する

7つの授業デザインを確認

大切にしたい提言

①出合いをしかける！

コンパクトでインパクトのある導入を！

ICTの活用

②めあてをつかませる！

見通しをもたせる手立てを！

めあてをつかませる情報提供を！

③一人で挑戦させる！

支援と評価につなげる見取りを！

情報を有効に活用させる支援を！

④仲間と追究させる！

めあて、実態に応じた話合い活動を！

話し合ったことの価値付けを！

⑤交流でさらに深めさせる！

児童生徒の意見や考えを活かした授業展開を！

深めた学びの価値付けを！

⑥自分の言葉でまとめさせる！

まとめと振り返りの違いを明確にして！

⑦学びを振り返らせる！

振り返りの活動の定着と共有化を！

次の学びにつながる振り返りを！

「主体的・対話的で深い学び」を支えるために大切なことを確認

◇教科の学習が好きになる授業づくり

- ・学習の有用感、達成感
- ・見方・考え方をはたらかせ、深い学びにつながる教科の学習の面白さの本質を追究する
- ・児童生徒の主体的な姿を引き出し、授業展開に活かす

◇魅力ある教員

- ・ほめる、認める声かけ、信頼関係、魅力ある教師

◇あたたかい学級集団・学習集団

- ・生徒指導の三機能を活かす

◇ユニバーサルデザインの視点

授業づくりで大切にしたい目的を考える

話し合い活動は手段です
目的は**めあて**を達成させることです

どんな資質・能力を育成するか

まとめ(=めあてに対する答え)まで導く

そのために「どんな学習活動が必要なのか」
「どんな手段が効果的なのか」を考えて授業をデザインしていくことが大切です。

「グループでの話し合い活動」も手段の一つです。



グループでの話し合い活動を設定する意味を考える

グループでの話し合い活動では

新しい情報を得ることができる

意見の多様性を考慮した上で合意形成することができる

表現力の育成

聞き手に伝わるように表現方法を工夫することができる

自己有用感

グループ内なら自分の考えを表現することができる

共通点、相違点の発見

他者の意見、考えに触れることができる

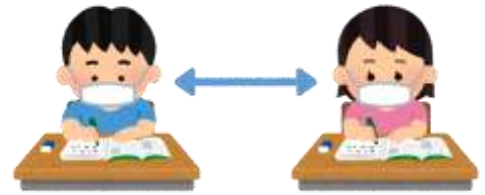
自分の考えの整理、再確認、深化

ゆさぶり、葛藤、変容

合意形成
共有化
納得解



話し合い活動を設定するとき、どんな配慮が必要かを考える



マスクの着用、手洗い・うがい、換気、ソーシャルディスタンスの確保等の基本的な感染防止対策を行った上で、以下のような配慮が考えられます。

環境の配慮

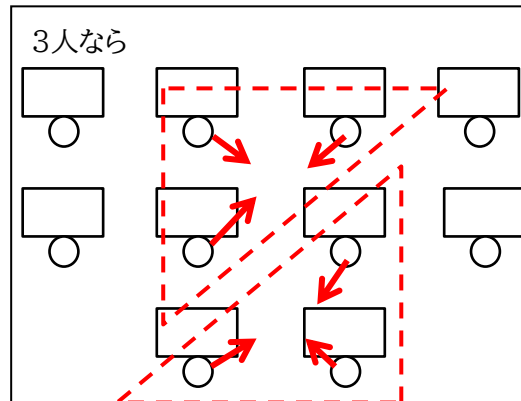
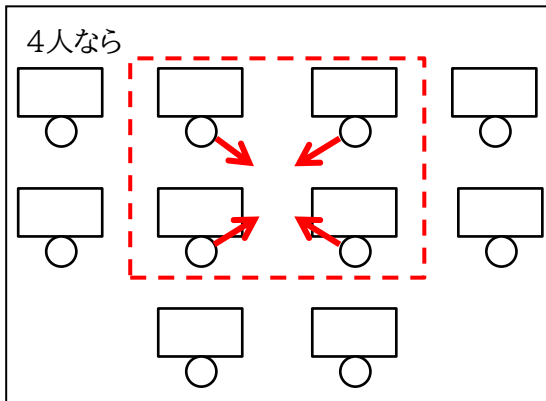
- ◇できるだけ少人数で行う
- ◇できるだけ短時間で設定する
- ◇児童生徒の移動を最小限にする
- ◇机は動かさない、体だけ向ける

内容の配慮

- ◇話し合う内容を焦点化する
- ◇他の意見を聞くことを大切にする
- ◇一人学びのワークシートや、意見や考えを記したカード等を活用する(まずは無言で読み合う等)



話し合う時の位置



ICTを活用した話し合い活動

タブレットを活用して考えを整理→共有し合う→チャット形式で意見交流

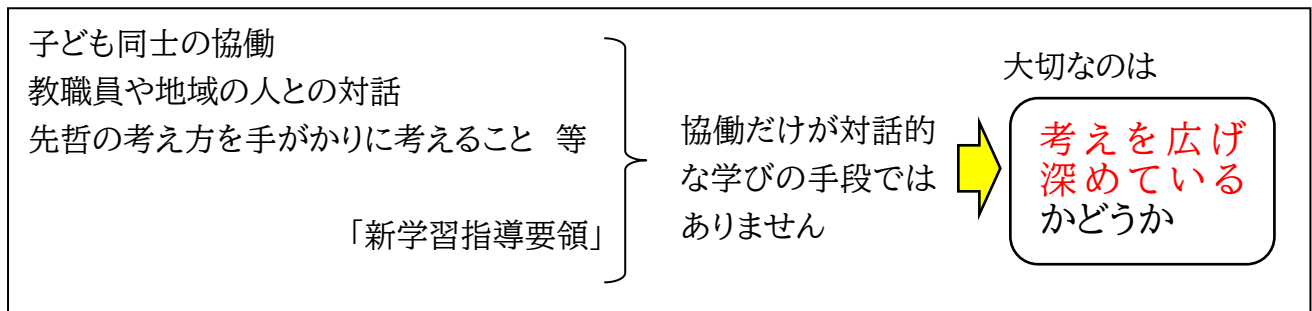
飛沫拡散防止ガードの設置



話し合い活動で期待される効果を、他の手段で追究することができますか？

「対話的な学び」について考える

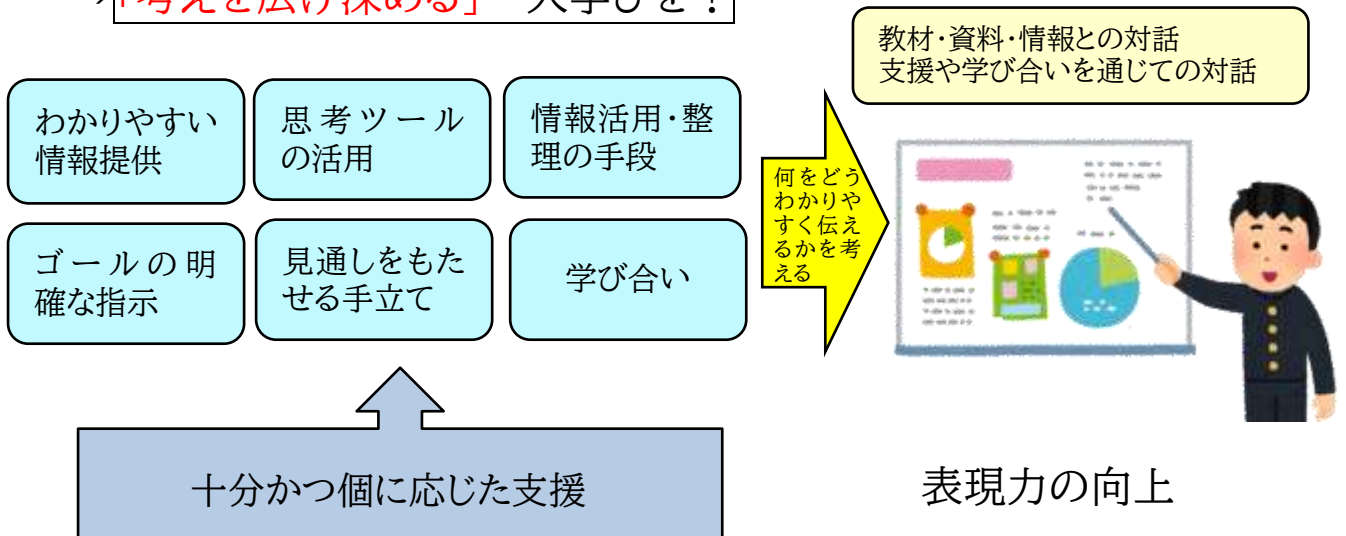
対話的な学びとは(視点)



「対話的な学び」の視点から一人学びを工夫する

一人学びを「対話的な学び」の視点から進めることができます。

→「考えを広げ深める」一人学びを！



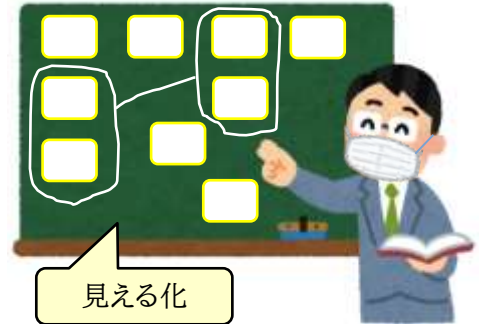
「対話的な学び」の視点から練り合いで深化させる

一人学びから全体で深化させる工夫

黒板に児童生徒の意見を記したボードやカードを貼る

教師がファシリテーターとなる

ICT 機器の活用も有効



見える化

比較(共通点・相違点)・仲間分け(見方)・関連づけ・統合、等の観点で整理する

児童生徒と対話しながら(1対1の対話にならないように)、考えをつなげていく

児童生徒が考えを発表することも考えられる

理由・根拠を明らかにさせる発問・ゆさぶりの発問、等で深化させていく

指名する場合は、「誰に発表させるのか」見取りの中で見通しをもつ

納得解・最適解を追究する

まとめに向かって、焦点化していく
(わかりやすいのは?)
(より簡単なのは?)
(正確なのは?)

児童生徒の自己有用感を高めるため、一人一人の意見や考えを大切にします。
そのためにはきめ細かでの確な見取りが必要です。



教師と児童生徒との対話で学びを深めるよう工夫する

指示や情報提示を工夫する

写真や映像、実物、フラッシュカード、
パワーポイント等の教材を活用して

→ **視覚からの情報**を重視する



「インパクトのある出会い」を
かけることができる

児童生徒が情報獲得する手段を増
やすことができる

指示や情報提示を効率的に行う
ことができる

より児童生徒の理解を促すことができる
(百聞は一見にしかず)

指示や情報提示を形にして残す
ことができる

ICTの積極的活用

発問を工夫する

教師がしゃべりすぎないためには…

めあての達成のため**どういう発問が有効か**

という視点で発問を精選することが必要です。

簡単、明瞭、具体的に！

「間」も大切です。時には沈黙が児童生徒の粘り強
く考える力や挑戦する態度をはぐくみます。

「児童生徒の意見や考えを活かしていく」ことが大
切です。児童生徒の実態から展開を想定しましょう。

また、学びの姿を見取り、つぶやきを的確に捉えて
授業に活かしましょう。

確認のため？
興味を引き出すため？
多様な意見を引き出すため？
理由を明らかにさせるため？
ゆさぶるため？
俯瞰的に捉えさせるため？
考える視点を与えるため？
さらに深く考えさせるため？
発想を転換させるため？

発問の目的を考えて、
よく練ることが大切です

